



i-woolの可能性はいろいろ！

洗って原毛(フリース)のまま
クッションや布団の材料に

用途に合わせて手つむぎして
ニット用編み糸や織物用の糸に

フェルトに加工して
ポットマットやコースター、プローチに

岩手ならではの織り技を生かして
ホームスパン、タペストリー、
室内マットなど、さまざまな製品に

子どもたちの情操教育、ウールセラピーに
フェルト作り、紡ぎ体験など



岩手県と羊の関わり

明治期、海外から岩手県に伝わった羊の飼育。昭和30年代までは、岩手県内でもめん羊産業が盛んでした。現在、県内で飼育される羊は600頭あまり。そのほとんどが肉用サフォーク種です。2018年度、岩手県は再びめん羊の産地化を図るべく、「いわてのめん羊里山活性化事業」をスタート。「岩手めん羊研究会」を発足し、飼養管理技術向上や、羊肉の流通体制構築などを3カ年計画で進める中、県産羊毛(i-wool)のブランド化にも取り組んでいきます。

温もりをいただく／i-wool emotion

現在、岩手県内で飼育される羊は肉用のサフォーク種が中心。生産者が手間をかけて育てた羊の肉質は県内外から高い評価を得ており、徐々に生産頭数を増やしていく予定です。その羊たちが身にまとった羊毛は、保温性や吸湿性が高く、水を弾きやすい一方で汗を吸うため、北国の冬には欠かせない素材。昔から、糸に紡いで布に仕上げた衣類等に使われてきました。ふんわりと弾力あるウールに触れると、羊の優しい温もりが感じられます。

物語を継いでゆく／i-wool succession

その土地に育った羊には、土地ならではの個性があります。たとえば英国には60種を超える羊があり、毛質や特徴も多種多様。岩手県内に多いサフォーク種は、毛足が短めで弾力があり、ニット用の紡ぎ糸、ストール、ジャケット、ブランケット等の手織り物、フェルトなど幅広く活用できます。羊毛の個性を生かし丁寧に作りあげたモノは、そこに息づく物語となり、皆さんの生活を豊かにしてくれることでしょう。

進化するウール／i-wool evolution

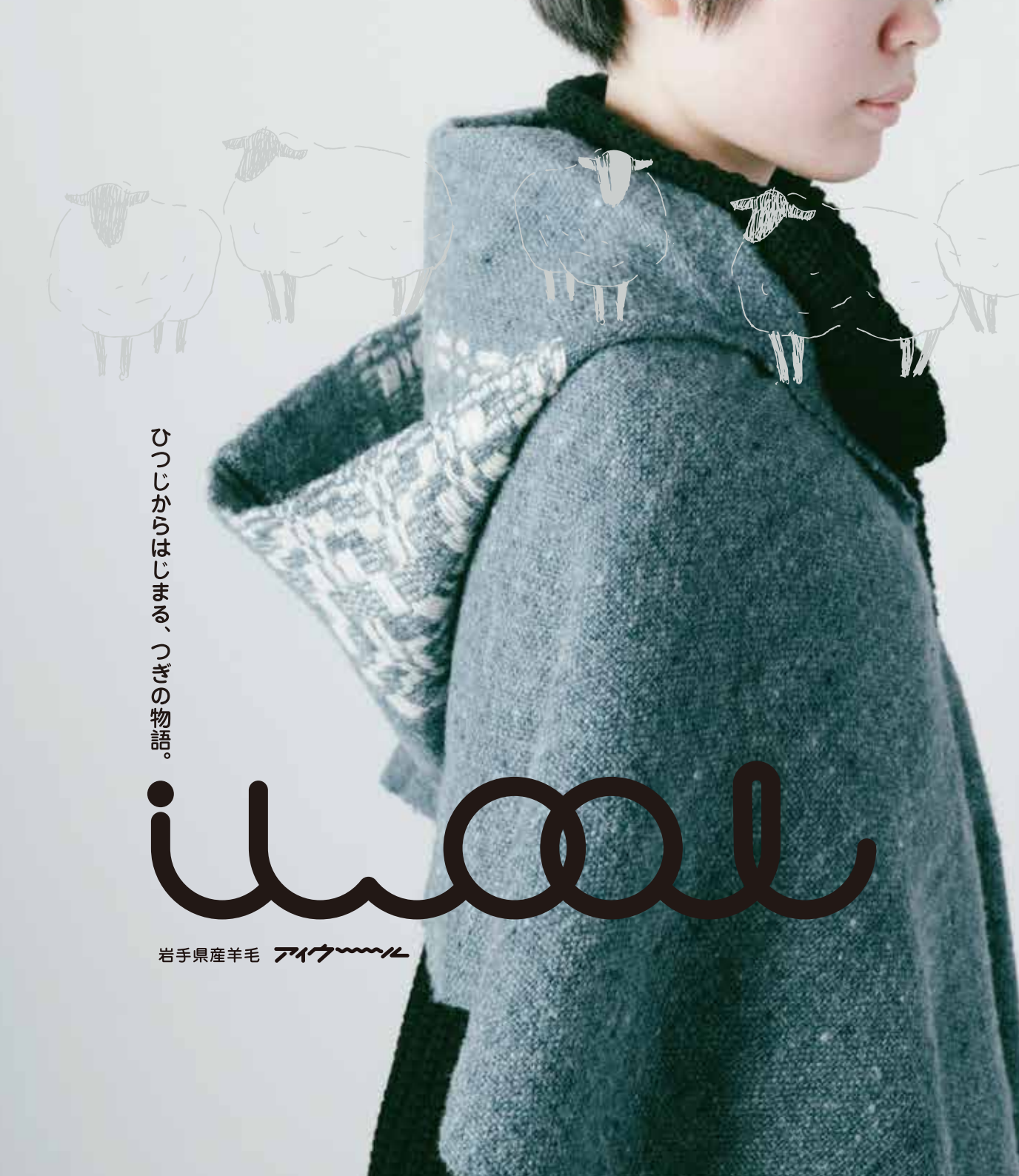
i-woolが作りだすのは、モノに留まりません。たとえば、i-woolを使った糸紡ぎやフェルト作りのワークショップなど、教育の場や地域内のコミュニティ醸成にも役立ちます。やわらかな羊毛に触れ、原毛が自在にカタチを変える時間は心地よいひととき。岩手で育つ羊毛の活用シーンをいかに育てていくかは、使い次第です。使い手の皆さんもプロジェクトメンバーの一人。進化していくi-woolの可能性を一緒に広げていきましょう。





岩手県産羊毛 アイウウール

i-woolとは、iwate(岩手)で生産された wool (ウール)のこと。
羊から一年に一度いただく贈り物です。
羊生産者が愛(i)を込めて育てたウールを
目的に合わせたカタチで生かすこと、それは新たな物語のはじまりです。



ひじりかひじりか、ひじりかひじりか、ひじりかひじりか。



岩手県産羊毛 アイウウール